昭和二十三年八月十七日　（一）

いわき民報

平市田町四八　電三八一番
編輯兼發行人　千葉克巳
印刷人　但月隴
日刊　を除く
定價一月四十円　一部一円五十錢

發行所　いわき民報社

斡旋委員會を設置

小名濱水素煙害對策委員會が初斡旋は舊盆あけの二十一日

成行を各方面から重視されている小名濱町日本水素工場煙害對策委員會は十六日午後三時から全工場會議室に開き、會長稲崎地方事務所長副會長樋口小名濱町長その他各委員出席、農林省肥料課豊島技官加藤縣農務課技官もとくに臨席、會社側からは大場事務部長、池津庶務課長、横井製造部長、照井工務部長、上野山次長、前野硫酸課長、江川世良田煙害係員、飯田硫酸係長らが出席、横井製造部長から煙害排除防備の工事施設による完全對策の可能を技術上から説明、ついで池津庶務課長から田畑被害三百町歩のほか非農家の損害要請六十六戸及び水産加工業者からの賠償要求二百万円に上つていることを開陳、種々對策協議の結果左の如く十名の斡旋委員をあげて被害者側の要求を基本に盆あけの二十一日を期して第一回の斡旋委員會を行うことに決定した

樋口町長、菅原町會議長、長瀬副議長、小野總務、鈴木（各種）兩委員長、金澤佐藤（正）兩町議、一般町民代表吉田龜之助、飯塚藤左衛門、松本誠

なお對策委員會ではこれを機に恒久的對策も樹立、毎年この種のいざこざを起さぬよう根本的解決策にも努めることゝなつた

馬目宗平初段が優勝

きのうの將棋A組の選手權大會

將棋選手權大會は本社主催のもとに十六日五丁目の將棋會所で開催、この日こそA組の選手權大會だけに參加十五棋士何れも緊張戦に次ぐ熱戦は續じられ一局六時間も要したものがあり十七日午前一時半終了したが遂に輝く選手權は平將棋會所の初段馬目宗平氏の手に歸した

優勝賞金千円初段馬目宗平氏（平）
一等四百円初段伏見茂氏（湯本）
三等三百円初段樋口小彌太氏（平）
四等二百円三級中村嘉市氏（内郷）

準決勝戦
勝　貿
伏見　樋口
馬目　中村
決勝戦
馬目　伏見

映寫協會創立準備

平地區映寫協會の創立準備は十七日午前九時

實驗、農試兩分場併置

神谷分場復活方法正式に決る

神谷村の縣立實驗農場石城分場は終戦後農事試驗場分場に轉換することになつたが實驗農場側や地元農事協議會等からの要望によつて實驗、農事兩試驗場の分場を併置することに十四日付で正式に決定をみた

課長級にも適用せよ

3・700円ベース

市職組からの要求

市役所職員組合鯨岡委員長は同組合を代表し十八日午前阿部助役と會見、三千七百円ベースに伴う縣の試案を中心に懇談、主任以下

吏員最高八千二百圓に

小名濱町三千七百ベース實施

小名濱町では町吏員待遇を三千七百九十一円ベースとすることを十六日の經務、經濟兩委員連合會で決定した、これによると今後町長一萬四百円（現在二千五百円）助役七千八百円（現二千円）收入役六千五百円（現千五百円）となり吏員最高は八千二百円となることになつた

總務經濟の連合委員會

きのう小名濱で

小名濱町では十六日總務厚生兩委員會連合協議會を開いて母子寮、授産所の敷地建物は保土ケ谷工場の敷地五百坪、建坪七十五坪の寮を買收することに決し、價格は工場側五十五万円というが三十万円を基本に多少のゆるみをつけて樋口町長に交渉を一任、東邦銀行出資は千株地方事務所新築寄附割當十二万円を承認、日本水素の煙害對策問題は委員として正副議長、總務、厚生兩委員を推すことゝした

炭鑛福利協會援護給付要綱

炭鑛福利協會は十七から盆で各炭鑛でも盆は地獄の釜のフタもあくとあつて十八、十九、二十日の三日間に臨休を行い增産に連日挺身した骨休みにゆつくり、くつろぐことになつた、平石炭局では十五日管内炭鑛が大部分お盆だからとて同じ日に一諸に休まれると配炭關係から都合悪くなるので平均二日位の休みと、配炭計畫に則つた休業スケヂュールを組む樣通知を出した

ヤマも二日間盆休み

配炭に支障ないよう局から注意

【平市】赤木利雄、鈴木孝之、武田政治郎、齊藤儀一長谷川昌、金子忠太、柏原英介、菅川英夫、荒川清、安田文雄

【石城】中野一、角田晴美藤田富等之助五郎、大方敏雄、落合政栄、金成軍孝、小坂直一、管沼恒貞、武藤一郎、小山泰司、松永信成三浦明夫、佐藤ひで、甲目まさ子、渡邊司、齊藤勝二芳賀政治、久田定男、永山猛之輔、堀川洋示、永山嘉一、森清一郎、小林金彌、宗形富士也、櫻谷利明、田中久夫、柴田公雄、遠西さとる、猪狩昇、中村勤、岩入り

第二回衛生管理者試驗の合格者

第二回衛生管理者試驗合格者は左の通り

醫藥用、化學用
其他硝子製品一式
新星藥品工業株式會社
平市　田町
電七一四番

イワシ粕で一百万圓の不當利得

モビールの手金詐欺も暴露さる

平地區署では最近大浦村方面にイワシ粕が大量に出廻つているので內偵中だつたが十二日茨城縣多賀町ブロカー佐藤耕一（四一）を檢擧取調べた結果、これは佐藤から昨年十二月末ごろ大浦村農業會がイワシ粕一等品十四貫匁入三百袋を百二十一万五千円で買入れ更に各農家へ分配していたものと判明した、なお佐藤はこのヤミ取引で公定より百七万六千六百三十六円の不當利得をしたほか同年五月にも靜岡縣のカツヲ船大吉丸にモビール油と稱し廢油ドラム罐三十一本を一本八百五十円の割で賣り公定より二万五千六百六十六円の不當利得をしたのを始め二十一年十月には茨城縣農浦村立花吉次さんよりモビール油を世話すると稱して手金三万円を詐取していたことも判つた

平商友會名簿編纂

平商商友會名簿編さん委員會では十五日夜八時より宮川商友會長宅で第八回の委員會を開き申間報告連絡打合せなどを行つたが現在まで約四％が進行狀況であるので發盆あがりに委員總出動で一氣編さんを急ぐことになつた、なお平商卒業生は至急編さん事務所へ連絡する樣望んでゐる

迫ーブタ箱で舊盆迎え

途方もない間抜チンピラ二人組

官警を脅す

馬鹿なチンピラの見本ー　內郷町高坂御殿殿常盤炭鑛住吉鑛運搬夫（一八）採炭夫（一八）の兩名は十六日夜十時ころ平市長橋町から御殿に通ずる堤防附近で手拭で覆面通行人を脅してはタバコや金品をまき上げて好い氣になつていたが、通行人の屆出で長橋檢問所勤務中の平市署遠藤、安齊兩巡査が腕章をかくして通行人を装い出向くと、またもいゝ鴨が來たとばかり、知らぬが佛とのこともあるが、思いあがつた二チンピラつかゝると兩巡査の前に覆面で現れ「あんちゃんタバコ出した、金はあるかい」と來た矢庭兩巡査がくれるから署まで來いと捕えようとするとビックリ一目散に逃げ出したが、小一町も追跡されてそのまゝ舊盆というに豚箱入り

齒科一般

石島齒科醫院
院長　石島公德
平驛前（白銀通り）

予防接種法の改正內容

平保健所では各種傳染病の徹底的防除を期するため、今度豫防接種が種痘だけでなく、チブリリア、腸チブス、パラチブス、百日せき結核、發しんチブス、コレラ、ペスト、猩紅熱、インフレエンザ、ワイル氏病も加えられ十二種目になると同時に故なくしてこれらの接種を意つたものに今後三千円以下の罰金を課することに決つたので從來のようにチブスの豫防注射を實施してもこれを避けるものが多いのでかゝることのないよう注意を發するとゝもに機會ある毎に市町村當局と密接な連携を保つて趣旨の普及徹底を期することになつた、定期接種の期間は次の通り

◆痘そう　生後一ヶ月から十二ヶ月に至る間小學校入學前六ヶ月全卒業前六ヶ月
◆ジフテリア　生後六ヶ月から十二ヶ月まで、小學校入學前六ヶ月
◆チブス　生後三十六ヶ月から四十八ヶ月の間、以後は六十歳に至るまで毎年
◆百日せき　生後三ヶ月から六ヶ月まで、全接種後十二ヶ月から十八ヶ月の間

なお接種者には市町村長から現定の接種證明書も今後は交附される

放射線科

內谷醫院
平市二丁目横丁

橋本署長の溫い惠み

不幸な十六少女へ

茨城縣那珂郡那珂湊町からはるばる仙台にいると風のたよりにきくたつた一人の姉を訪ねて飯野村まで來た少女が空腹のあまり店頭からリンゴ一個を盜んだばかりに平地區署へ突き出された—この少女は川崎美代子さん（一六）で生後間もなく兩親に死別、遠縁に當る家に引取られたが最近複雜な家庭事情と食糧難からいたゝまれず十二日夜無斷で飛出し金錢の工面も出來ず徒歩で會いたさ一心にのまず食はずで飯野村まで來たが、余りの空腹に店頭のリンゴをみて善惡も判らず夢中で一個食つたもの、司法主任も同情、橋本署長の情により旅費三百円を與へ舊盆十三日の十七日朝仙台へ出發させた

白米二斗で夫婦の御難

多賀郡正道（二四）妻きみ子（二六）の兩名は十五日夜七時ころ白米二斗を風呂敷四個に包んで來たところを、平地區署佐藤周太郎巡査に御用

上衣等盜まる

河炭鑛山の坊第一寮一號室採炭夫菊地仁吉さん（二二）ほか二名は十四日午前三時ころ熟睡中に冬物軍服上衣、万年筆、タバコ類など計四十點を盜まれた三人とも一向に氣付なかつた點、全署では內情に明るい者が組んでの仕事と睨んでいる

いわき寸言

◎迎え盆、喜ぶは坊主ばかり食えぬ大衆には大晦日と同じ
◎盜泉の水をのまずとは昔の言葉で既に化石したらしいです、丸公問題が教えました
◎苦しい時の神頼み、神さまが敗戰でいなくなつた今日このごろは押借り、ゆすり頼みか

好間村北好間山の坊古

いわき民報案內

有名商店

七月ノヒット盤入荷
洋樂、輕音樂、歌謠曲
レコード、蓄音機、コロンビアレコード入荷
平市五丁目　金光堂時計店　電一九五

機具と金物類なら當店へ
金物一式卸小賣
川口屋　柳內商店
平市田町電九二

家庭金物一般
マルヘイ商店
平市銀座街電一四

カメラ
高價買入
平市三丁目本通
タナカ
電五七六

（順不同）
平市衣料品店登錄
禮御選當

大和屋百貨店　三丁目（ふでや洋品店）
橋本合資會社　四丁目　電四〇一
鶴屋商店　四丁目　電一四〇
マサゴヤ洋品店　田町　電三八一
山家メリヤス店　一丁目　電六〇五
伊關吳服店　二丁目　電三三三
ハシモトヤ糸店　田町　電四一
農業協同組合　平窪　電八二四

早大出身者に告ぐ
日時　二十一日（土）正午より
場所　いわき民報社
右に通り懇談會を開きますから奮つて御出席願います
石城稻門會

中古衣類破格販賣
御婚禮江戸褄　モーニング　高級衣裳　その他
お求の際は是非一度御相談下さい
▽盛夏單衣若柄在庫豐富△
中古衣類屋　中央會館
平市田町（平鹿隣り）電九一一五

新律式脫穀機
小型籾摺機
單相モーター
製繩機
電動機二式
セメント瓦工業
石城郡磐崎村
織內農機店
電話湯本一四八

即金
衣類一般御買受（電九六番）
御處分品の御相談は必ず弊店へ……
平銀座ヨコ紅小路通り（柳ノ湯横通り）
誠實上値の買受店大崎屋

智勝院瑞光麗雯童女　新盆に際し
供物其他御遠慮申上ます
施主　大井川幸隆

諸根勿來と私

史談會顧問　根本忠孝

磐城史談會は去る八月二十四日、第九回例會を兼ねて勿來關趾見學、更に徒歩で海岸を傳りて平潟に出で附近の史料を調査したが、案内及び解説には山田中學校のしづく石太郎先生が當られた。

其際、話の序から不圖諸根樟一君のことが話題に登つた。鈴木光四郎先生が『諸根さんの磐城文化史は今日では貴重な文獻です』と申されると、山藤正一先生が『諸根さんはもう七十歳位になるでせう』と申された。そこで私が『そんなに成りません、私と同年です』と申し上げると、それなり話は途切れて終つたのであつたが、今日斯くも鄉土史家達より貴重がらるゝ『磐城文化史』を著述し、今年五十六歳でありながら七十歳位に想像せられる諸根君とは如何なる人であるか、私は友人としての諸根君の過去を書くのも強ち無獻なことではあるまい。

諸根樟一君は戸籍面は「正一」である、勿來と號した。明治二十六年生れ、壯年或る理想に燃え中央に出で活動せしも、事、意の如くならず途に意を傾けて大正十年空しく川部村にはん鄉し同十二年平市字田町に出でて古本屋を開店し、妻子三人でさゝやかな生活をしてゐた。時は大正十四年の早春であつたと思ふ、私は此のさゝやかな古本屋に不圖這入つて何氣なく飾られてある本の中から『戊辰私記』を見出して買い求めた。その際諸根君は何に思つたか妻に命じて、初めて逢つた私にお茶をすゝめて下さつた。此の一杯のお茶が貴重な文獻『磐城文化史』を著述する動機が胚胎するなどは諒ならぬ身のお互に知る由がなかつた問へつ問はれつ話はそれからそれと連り、私が同君に日本歴史研究に入る前に鄉土史の著述に着手されることを極力すゝめた其意面には可成復雜した事情があるが、一切それ等の事は省略することゝする。

その後、一ケ月ばかりにして再び同君を訪うたところが既に該書の著述に着手されてゐた。當時は、參考資料に乏しく且つ經濟的にも惠まれてゐない諸根君を知つた私は、出來得る限り史料を蒐集して應援することを問く約した。外に經濟的には諸橋元三郎氏、章野順平氏等の援助が多少はあつたらしい。

それからと云ふものは諸根君と私は史料蒐集に万難を排して奮闘した。或る時は郡南地方の史料を探りて植田に吉田正愛氏を訪い、ある時は夏井に山名隆文氏（隆貞氏の父）を訪うて國魂文書を調べ、ある時は高月に鍛野氏を尋ねて飯野文書を寫し、或は白水に國室阿彌陀如來を拜し、大野に桑王寺の國寶を觀て其の由來を探り、亦ある時は明治戊辰役に於ける安藤信正の平城立ち退き後の事蹟を探りて赤井村永戸村より川前村に到り更に双葉郡川内村より同郡浪江町熊町に到り漸く平潟の假本營とした幾橋村の馬場氏宅にて當時の古文書を寫したこともあつた。如斯遺蹟を實地に踏査し、影の形に添ふが如く諸根君のある所、私が附添ふて出來得る限り史料の探究を援け、その甲斐ありて同君をして彼の「磐城文化史」を結晶せしめたことは、今日密に私は嘉んでゐるのである。

斯くまで私が諸根君を應援したその眞意は、私が斯學に趣味を有していたばかりでなく本郡及本縣には所謂鄉土史家、教育家、鄉土を愛する指導者町村文化を主張するの士乃至は政治家の數が、充棟もたゞならざるに、それ等の士は僅して自己の政略、利益、醫名非學徒の類が多くゐるを、常に遺憾に思つたからであつた然るに同君はこれに反して、嘗つて日本に於ける鄉土主義を剛説して、而かも鄉土一切の文明の建設は、一の鄉土史の普及を除いて、その鄉土人本然の精神及生活上に對する原求は、他に何等の運動も、寧ろ第二義的なものであると確信するや、先づ以て「磐城文化史」を著述し、引續き「同郡板集成」を著述し、「石城郡郡村史」を著述し、「飯野及國魂史料文書」を編著し更に「福島縣政治史」を著述し、遂に本郡と本縣との史學的れい明期に向つて、文獻的の復興者として、先驅をなした實に堅忍不拔の士であることは、私が今日蹟を大にして讃美するまでもなかろう。

然るに「磐城文化史」發刊せられし當時、私は之れが批判を試み「磐城文化史を讀む」と題し、福島民報新聞紙上に掲げ該書幾端の先史時代及原史時代の研究並にその敍述の不備を擧げて、大いに攻擊したことがあつた。これに對しては流石の同君も一言の辯解がなかつたが余程不平であつたらしい。

翻つて昭和三年十二月三十日午前一時、諸根君の主宰していた平市字田町の鄉土社は平劇場より發火し、類燒全滅の災厄に逢會したことがある。同君がこの際燒失した數多の貴重な圖書及原稿の一切に對してにまことに痛嘆の至りであつた。殊に「白井遠江傳」著述中のことにて小川村白井家より借受けし文書を全部燒失したのは、かへすがへすも同家に對して氣の毒の極みというべきであつた。この際私は同社に同居していたので自己の書籍數冊と和服洋服各一着及靴等を燒失したのであつた。こゝに於て止むなく私も暗歸宅の余儀なきに至つた。

然るに爾後一週間目に諸根君より左の葉書に接したのであつた。

本社會讀

パン〳〵の實態を衝く

根城は平市内や炭鑛街に置く

パン〳〵ガールが地方に出没するようになつてから久しいが、ことに市内と炭鑛方面は多く今では「あれがパン助だよ」と公然人々より指差される程になつている、以下眞夏の闇に妖しい微笑を浮べる彼女たちの實体を衝いてお盆の夜話に諸者へ贈ろう—

大體はズベ公が多い

ヤミ屋やブローカー相手にほとんどが花柳病の所有者

大体このパン助とはズベ公と稱する女不良に多く平潟の話では昨年五、六人だつたものが今では二十人近くにも增えており年齢は二十才前後の未亡人から二十才乃至十八才位のものが多い、然もこれは大部分地元の者でなく福島、郡山、磐野方面から三日位續いでさつと引上げて行くズベ公に多い、然し地元炭鑛方面にもこの道へ轉落しているものもいるがこれは大低色黑の盛んな宇都宮方面へ遠征して地方の人には知られないようにしている、大体このパン助はヤミ屋やブローカーなど金廻りのよい階級を相手にしているようだが最近の金詰りが反影して余り繁昌もしていない模樣大低は五級から六級旅館や内鄉、四倉など鑛泉場を利用しているがこれも客次第、そう年中宿屋住いもしておれないので或る旅館などは女を希望する客があつた場合に知らせて貰うような仕組にしているところもある、パン助なと映畫に行つているうち三人の惡度が惡いので嫌氣もさしたが然し異性への好奇心も手傳つて相手になる男と話合つて見た、初めて話する男にます〳〵面白味を感じ途にはこのまゝ家に歸ることがつまらなくなつて來た、偶々夜遊びが過ぎて遲くなつたので奏められるまゝに三人と共に旅館へ泊つて見た、彼女たちはいつも親切で何日泊ろうと自由だと云はれたので思切つて二、三日泊つたが家では大騒ぎとなり結局警察の手により家へ呼戻された、その後も三人と合つたが今度また泊ると警察から叱られると思込みコツソリ三人と示合つて面白い未知の世界を夢見て宇都宮へ一緒に連れて行つて貰つた、七月下旬性病と云うらく印を捺れて一人淋しく平へ引揚げて來たがその時には彼女の腕に愛人の人墨が深く刻れていた

十七娘が辿る轉落の唄

そも〳〵の初めはダンスホール通い

なぜパン助に轉落したか—市内長橋町某女（一七）の場合に例をとつてその過程をみて見よう

彼女は小學校を出ると家事手傳をして眞面目だつた、今年四月初め市内某ダンスホールに通うようになつてからフト知合つた好間の三人の女（實はズベ公だつた）と映畫に行つているうち惡度が惡いので嫌氣もさしたが然し異性への好奇心も手傳つて相手になる男と話合つて見た、初めて話する男にます〳〵面白味を感じ途にはこのまゝ家に歸ることがつまらなくなつて來た、偶々夜遊びが過ぎて遲くなつたので奏められるまゝに三人と共に旅館へ泊つて見た、彼女たちはいつも親切で何日泊ろうと自由だと云はれたので思切つて二、三日泊つたが家では大騒ぎとなり結局警察の手により家へ呼戻された、その後も三人と合つたが今度また泊ると警察から叱られると思込みコツソリ三人と示合つて面白い未知の世界を夢見て宇都宮へ一緒に連れて行つて貰つた、七月下旬性病と云うらく印を捺れて一人淋しく平へ引揚げて來たがその時には彼女の腕に愛人の人墨が深く刻れていた

この現實を見よ！

少年萬引八名警署にあがる

青少年不良化防止問題が騒氣に取りあげられ、最度か小田原評定の至念佛がとなえられている折柄、平市警に萬引少年たちがあげられおエラ方に口先の説導だけでは効果ないことを教えている—この少年は市内第三小學校五年生五名六年生一名、第一新制中一年生（一四）と全三年生（一六）の八名でいづれも本春三月ころから鈴屋商店、魁文堂、マルドモを始め市内各商店から雜誌、繪本、文房具、ナイフ等々を手當り次第に盗んでは小遣錢に當てゝいたもので最高は十八回にも及び一番少いもので五回にわたつている

交通道德では市民未し

平市警では去月十五日からの交通安全デーに交通安全協會平支部の協力を得て

ポスターに映畫に宣傳を努める一方交通標識器の增設等を行つて來たが、今度去る十四日まで一ケ月間の市内取締り成績を發表した、右に依ると何といつても違反のトップは左側通行違反で續いては無燈火自轉車乘りであるが、内譯其の他について、目下協議中であるが取りあえず八月の左側通行違反七八（說諭）併列通行九（注意）石や木材の放置三（說諭）幼兒の路上遊戯七（注意）無免許運轉一二（送致）駐車禁止無携帶五（送致）駐車停車製限違反二（說諭）トラックの人員輸送七（送致）定員外乘車三九（一六說諭、二三送致）自轉車無燈火四六（說諭三五、送致二）自轉車二人乘二（說諭）長大物件積載三（說諭）喫煙運轉二（說諭）雜三

この違反總件數は三百十八件でうち注意十六件、說諭一日四十一件、送致六十一件となつているが今後はどし〳〵說諭等でなく法規にてらして處分することになつた

觀賞會取止

PAMPCがP・M・Pクラブでは今回の映畫紹介金値上げに伴う經費增額其の他について目下協議中であるが取りあえず八月の

（拳闘二）の協力を得て怪盜×團一味を逮捕し、又彼女をも獲得する、近頃とやかく言われる官民協力を中軸に殺草の人氣者シミキンと拳闘二を主役組せ、これに版画武（金六）の親父）山路義人（和子の父）大坂志郎（金六の友藤川）江戸川闘子（マダムとみ江）等をまじえた誠に朗らかな喜劇、米よこせとか賞銀値上げとかうるさい浮世のウサを一時でも忘れて唯一圖に笑いたい人にもつてこいの作品、演出はシミキン物を三作もとつて彼の長短を良くわきまえてゐる管の依々木啓祐である

一映畫紹介一

シミキンの探偵王

—◇17日—平館◇—

御の私立探偵家氣取りのパン屋の伴金六（シミキン）が祕かに戀する資産家の娘和子（朝霧義子）の愛に時には彼女と喧嘩をしながらも木島刑事

一映畫紹介一

我が愛は山の彼方に

16日から平寶で上映

交響をテーマとして芸術的に結核供米、農地改革、或わ治水問題等に現在政治社會上重要な問題を占めている問題をからませて一見非常に欲張つた問題作であるが敢てこの一番のようでわあるが敢てこの

劇場より發火し、類燒全滅の災厄に逢會したことがある。同君がこの際燒失した數多の貴重な圖書及原稿の一切に對してにまことに痛嘆の至りであつた。殊に「白井遠江傳」著述中のことにて小川村白井家より借受けし文書を全部燒失したのは、かへすがへすも同家に對して氣の毒の極みというべきであつた。この際私は同社に同居していたので自己の書籍數冊と和服洋服各一着及靴等を燒失したのであつた。こゝに於て止むなく私も暗歸宅の余儀なきに至つた。

然るに爾後一週間目に諸根君より左の葉書に接したのであつた。

トウランプ特約店募集
一町村一店に限る
至急お申込み下さい
電燈電力工事請負
各種機器販賣
藤浪電氣
平市白銀町電828

定品級検一
ソトフ電球
平硝子製作所
本社　平市田町二六番
電話五五七一・七六五番

正確。安價
時計の店
銀座街
サービスの店
光堂
平市銀座街
電982

キモノと洋服……買入販賣
和屋
平市シロガネ町

内科
小兒科
三井醫院
平市仲田町六九
三井五郎
電六一五

健康のモトは
毎月一回清腸日を
1 腸の養素排除（清腸藥）
2 回虫蟯虫の驅除（虫下シ）
3 レバロン、カルシウムの榮養素の補給
（ツカレ、ムシウカズ）
日本健民原生師會研究員
國民健康保險藥劑師
公衆衛生師
藥劑師
阿部康雄
阿部康藥局
平市田町銀座街

電話番號變更御知らせ
耳鼻
咽喉科
大和田病院
藥の一七〇番が復活しました
平市田町十六番地

香料と色素入荷
アイスキャンデー、氷水用
目下大賣出し
東京北國屋商店平出張所
東京屋
平驛前大通いわき民報隣

會大り踊盆裝假賞懸大
雨天順延
金賞
特等　金參千圓
一等　金貳千圓
二等　金壹千圓
三等　金七百圓
其他十等まで、團體賞個人賞、賞品多數あります
小名濱港の夏祭り
盆踊りの夕
日時　八月十九、廿日（舊盆十五、十六日）二ケ日間
場所　小名濱臨港驛前通り
主催　丸惣組　小野一
後援　小名濱町青年會